



せせらぎ動物日記

文化部 田中 達也

暑中見舞い申し上げます。
この森とせせらぎネットワークニュースが出る頃は夏の太陽が勢力をふるい、猛暑の盛りを迎えている頃。

夏野菜に果物、せせらぎではツルを伸ばした朝顔が朝に夕に季節の涼を演出しているでしょう。柄杓を借り遊歩道に打ち水をして、木陰で休むとさらさらと風が通り抜け心地よい気持ちにしてくれます。

夏雲に向日葵、遠くで聴こえる蝉時雨、陽炎の向こうに水辺で遊ぶ夏休みの子供達。



黄昏に川面に映る黄金色、日が落ちて涼みを求めて人の声。迎え火のお香をたく庭さきに胡瓜と茄子の供え

を見れば、はや唇では秋の近づきを知らせる。ヒグラシの鳴く頃に空を見上げれば、夏雲に波状にたなびくすじ雲が、季節の移ろいを感じさせてくれるでしょう。人工ではあるけれど植樹された木々は年々成長し、戻ってきた野の草花、野鳥に虫たちと触れ合える。

せせらぎ遊歩道が何時までも憩いの場所であることを願ひ、これからも写真に記録し守っていきたいと思いました。

「せせらぎ美化で気がついた点」
みんなで話し合い、行動しよう！
森とせせらぎネットワーク副代表 松本浩次郎

森とせせらぎネットワーク「行動指針」の第一項目は、「美しいせせらぎの環境を子供たちに」を掲げています。今回のネットワーク有志による「せせらぎ観察会」は、江川せせらぎ遊歩道を「更に良くするため」に、現状の問題点を拾いだそうと、ゴミ拾いも兼ねて六月二十日(日)朝、平井代表に激励され、新城公園から開始しました。

「タバコの吸殻」「食べ物包装ゴミ」が多いのと、「放置自転車」にも驚きました。太陽幼稚園からの上流はせせらぎも澄み、狭いなながらも快適な空間でした。

「櫻のプロムナード」付近には、折り畳みイスが持ち込まれ、蒸し暑さを避けての夕涼みに、「みなさんの憩いの姿」が想像され、もったい丸太イスや「ベンチ」を増やせば、と強く感じました。

「鯉」が「えびが」早急な対策が必要です。中之橋際の「蛇籠」が



地域の安心 地球の平和 祈りを込めて
せせらぎ 灯籠流し

田辺 勝義

第三回目の灯籠流しの準備が始まっています。

この行事は、地域の人が手を結ぶことで、安心できる地域にし、子供たちを見守りたい。二、お盆の時期に、先祖の営為(えいゐ)の上に私たちがの生活があることを思い起こし、先祖を敬い祈りを込めて精霊を送りたい。三、戦争では、世界の大勢のひとが亡くなりました。平和を祈り慰霊したい。こういう思いを込めて行われます。

皆さんで灯籠を組み立て、絵付けをし、願いを書き込んでせせらぎに流します。川崎市教育委員会が後援し、現代人形劇センターの乙女文楽も上演されます。是非ご参加ください。詳細は下記『せせらぎ ネット参加団体イベント紹介』をご覧ください。



去年の灯籠流しの模様

せせらぎネットワーク参加団体
イベント紹介

●森とせせらぎネットワーク
●「第三回せせらぎ灯籠流し」日時八月十五日(日)六時～八時場所・せせらぎ東屋・明津橋・雨天中止・見学無料・灯籠一式3000円(先着200名)

●予約申し込み先
柴崎・766・5965ファックス兼
*予約申し込みの方には当日フィットケア前で材料をお渡しし組み立て、絵付けを行って頂きます。*八月中にせせらぎ東屋管理棟でも販売します。

●「第四回森とせせらぎ祭り」
日時・十一月七日(日)場所・高津区橋公園・幟旗や広告などで皆様のご協賛を是非お願いいたします。

●ひとみ座
第三回乙女文楽教室修了生による発表会
日程 八月二十九日(日)時間 未定
演目 「二人三番叟」・問合せ 現代人形劇センター777・2228

●井田山・市民健康の森を育てる会
井田山親子キャンプ・一泊二日・日時
七月三十一日(土)十五時～八月一日(日)
九月・場所井田山市民健康の森・申込み
竹井090・26431052

『森とせせらぎネットワークの
活動に期待する』

市民ボランティア活動を各種セミナーなどで支える「かわさき市民活動センター」。
その市民活動推進課事業推進係の福森主任からコメントをいただきました。
以下コメント。

ボランティア活動や市民活動を始めるきっかけは、社会制度に対する疑問や絶望であったり、やむにやまれぬ事情だったり、誰かに頼まれたからだったり、人によってさまざまです。しかし、活動の意義に心から共感し、常にやりがいを見出せるような「成果」がはっきりしていないと、長く続けるのは難しいものです。

「森とせせらぎネットワーク」は、運動からすでに十余年「江川せせらぎ遊歩道」完成からも八年目を迎え、ますます活発な活動をされていらっしゃることに敬意を表します。

活動の「軸」である情熱が揺らがないこと、条件は、どれだけの活動に愛着があるかにかかっています。

そういう意味では、特定の場所の環境を守り、歴史を語り、次世代へ引き継いでゆく活動は、活動を長く続けるための「条件」が整っていると言えます。

これからも多くの人たちを「巻き込み」ながら、子どもたちに今の環境を残せるよう、活動を続けていだければと思います。

公益財団法人かわさき市民活動センター
福森 義之

高津区市民健康の森

螢観賞会について

森とせせらぎネット
代表 平井 資嘉寿

千年神社の西側約二百メートルくらいに所にある広い竹藪と広葉樹の木々に囲まれた高津区市民健康の森の螢観賞会を森とせせらぎネット会員に呼びかけました所、皆さんが喜んで賛成され、足の弱い人には車を用意して、元気な人は自転車、四日の日暮れころ、現地に三十名を超す程の人が参加されました。

久しぶりに見る螢の優しく淡い光があちこちで、高く、低く、乱舞する様は、電気の光と違い見る人の心を和ませてくれるものでした。また、竹灯籠のやわらかい光が足元を照らして、とても優雅で幻想的な風景に感動しました。

そして私はふと思いました。「この市街地の中でどうして螢の乱舞がみられるのか」と。

高津区市民健康の森を育てる会の役員の方に聞きましたら、「夢の螢を飛ばそう」と近隣の同好有志多数が賛同され、年間を通じて色々ボランティア精神で高津区の風物詩として定着した地道な活動を行っているようです。

また、高津区明津町会の有志の方は螢の幼虫の餌になるカワニナを、千葉県まで捕りに行き、自宅の沢山の水槽で螢を養殖して、時期を見て現地に放流し「大勢の方に楽しんで貰えれば良いですよ」と笑っている姿に、これからも元気で末長く頑張っていたいただきますように、参加者を代表して感謝申し上げます。



周辺ボランティア団体紹介 「おと絵がたり」

代表・加藤 妙子



「おと絵がたり」というのは昔と影絵と語りで物語を表現するものです。

2004年からこの活動を、川崎市中原区を中心に母子約二十人で行なってきました。

きっかけは地域の小学校で読書の時間に子ども達が見やすいようにと影絵を大きくスクリーンに映し出したことでした。そこに、お母さん達が様々な工夫を持ち寄り、音楽や効果音を加えた今の様な形が出来上がりました。

日本や世界の昔話や地元につながるお話を中心に公演しています。



otoestage-qanda@mail.goo.ne.jp
fax:03-5703-0288事務局：中尾

せせらぎネット文化部の活動紹介 はがき絵展に思うこと

文化部長 中谷 倭文乃

森とせせらぎネットで始めたはがき絵展も四年、江川せせらぎの四季折々を見つめ、次々に咲く花々に心ときめかせ、年々関心を持っている人たちが協力してくださる近隣の方々のお知恵を借りながら、ようやくはがき絵展も成長してきたように思えます。

月一回開催される青空教室や江川せせらぎを愛する仲間と、はがき絵を通して地域交流をし、おしゃべりをしたり、教え合ったり、皆さん多彩な才能を發揮されています。

共鳴する仲間や感動を共有出来る日々の暮らしを、皆様から頂く元気のパワーを源に、これからも夢の実現に向かって一歩ずつ前進して行きます。



管理棟脇で行われる「はがき青空教室」

物語の伝え方がっている「命の大切さ」「自然を敬う」「人を差別したり、傷つけたらしない」等大切なメッセージである「心の分ち合い、つながることを目的としています」。

二十二年度からはこの様な活動に興味を持っていただいた方や地域の昔話と一緒に楽しみたい方々と「おと絵がたり体験学級」を始めました。

遠方から来られた方や、親子参加の方々と、とても楽しく交流をおこなっています。

秋の会もまた募集が始まります。ぜひ、参加してみてください。

身近なせせらぎに「つどい、みんな」で地域の昔話を楽しみたいと思えます。

お申し込み、お問い合わせは下記まで。

連載 各地の祭を訪ねて⑧
大垣祭り 伝統の光と影
佐藤 克明

岐阜県大垣市は、松尾芭蕉終焉(えん)の地とあって、俳句祭りもあります。今回訪ねたのは、からくり人形などを乗せた山車(だし)が十台出る大垣祭り、五月八日九日の八幡神社の例祭です。

前日、JR大垣の駅前通りを歩いてみました。全国どこでも見る閉店の多い商店街で、人通りもありありません。はたして祭りは賑わうのでしょうか。ホテルに入り、全国から集まって露店を出すテキヤの宿泊で混雑していました。

八日の朝、神社に集まる山車の先頭は神楽山車ときまっています。神楽を舞う二人の人形は、山車の中に入っで棒で操作していました。大黒、恵比寿、鯉(なます)など名前前のついた山車には、子どもが舞いを演じるものもありました。

神社で奉納を終えた山車は、市役所に向かい、そこでまたからくりや舞いを披露します。このころには、駅前も横町も延々と露店が連なり、次第に市民や近郷(きんこう)から訪れる人々でにぎわいます。

夜は、提灯の明りが雰囲気さええ、翌日の本祭りは神輿(みこし)もでて賑わいました。

◆ 編集後記 ◆

江川せせらぎ遊歩道は透き通った水とともに、中原区と高津区の区境を流れています。

市のデータによれば両区はヒートアイランド地帯。川崎市で一番気温の高い地区だそうです。

新城から、せせらぎの流れとその先の里山が、周辺に生まれ育った子供たちの「良きふるさと」となるように、大人たちは今後どういった行動をとればいいのか。

海沿いの工業地帯から麻生区まで、自転車で行くと実感するのは、緑の差です。

せせらぎの両側にはまだ多くの畑や森が残っていますが、それらも年々減少しています。

せせらぎは、開菜と自然のせめぎ合う境目でもあるように思います。

広報本間
せせらぎネットでは皆様からの幅広いご意見を募集しております。
連絡先：事務局長 田辺
044-766-5315